鳥取大学研究成果リポジトリ
Tottori University research result repository

タイトル Title	「一式飾り」探訪記 : 第9回 子どもと「見立て」
著者 Auther(s)	Takahashi, Kenji
掲載誌・巻号・ページ Citation	島根日日新聞 : 5 - 5
刊行日 Issue Date	2018-05-23
資源タイプ Resource Type	論文 / Article
版区分 Resource Version	出版社版 / Publisher
権利 Rights	注があるものを除き、この著作物は日本国著作権法により保護されています。 / This work is protected under Japanese Copyright Law unless otherwise noted.
DOI	
URL	http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/6236

「一式飾り」探訪記

鳥取大学地域学部准教授　高橋　健司

第９回

子どもと「見立て」

まずは写真をご覧いただきたい。陶器一式の小さな作品である。タイトルには「勉強している人」と書いてある。何を表現しているか、お分かりになるだろうか。

初めてこの作品を見た時、私は「勉強している人」が、どこにいるのか分からなかった。しばらく考えて、机に向かって勉強する時に、自分の手が作品のように見えることに気付き、その発想の面白さに思わずうなってしまった。

実は「勉強している人」は大人の作品ではない。制作したのは出雲市立中部小学校の４年生の子どもたち。２０１７年２月に中部小学校で行われた「ミニ一式飾り」の制作体験の際の作品である。制作を指導したのは直江一式飾り保存会の皆さん。私も研究室の学生たちと一緒に手伝わせてもらった。

中部小学校の子どもたちは５、６人のグループに分かれ、教室に集められた大量の陶器の中から、使えそうな陶器を見つけ出し、テープで貼り合わせて、あっという間に作品に仕上げた。制作に要した時間は１時間足らず。子どもの柔軟な発想に何度も驚いた。保存会の人たちも刺激を受けた様子であった。

写真の「勉強している人」など、中部小学校で制作されたユニークな作品は、２０１７年７月の「なおえ夏祭り」で飾られた。直江では毎年、各町内の作品展示と併せて「ミニ一式飾り」の展示コーナーを設け、子どもたちの作品を飾っている。ぜひ一度ご覧いただきたい。大人の作品に比べると小さいが、発想の面白さでは負けていないと思う。

このほか、平田の出雲市立平田小学校でも子どもたちが「ミニ一式飾り」を作り、富山の福岡町では、子どもが小学校で育てた野菜を用いて「つくりもん」を制作している。また福井の勝山市では、なんと小学校で使う道具を見立てて作品を作っている。

こうした各地の取り組みに刺激を受けて、鳥取の小学校でも作品作りに挑戦したくなった。私の研究室では毎年、「法勝寺一式飾り」の地元の南部町立西伯小学校で「一式飾り」の授業を行っている。その際に、子どもたちに学校の道具一式を用いて即興的に作品を作ってもらうことにした。

お題は「干支の動物」。２０１６年の授業では、子どもたちが音楽室から半円の形をしたプラスチック製のタンバリンと鈴を借りてきて、二つ並べて立たせた。次に教室で見つけた金属製のフックをそれぞれに引っ掛けた。一体何ができたか、お分かりだろうか。

作品名は「クジャクの親子」。立たせたタンバリンと鈴を、羽を広げた親子のクジャクに見立てた。フックはクジャクの曲がった首、タンバリンのシンバルと鈴は、羽の丸い文様である。たったこれだけの材料で、見事な作品ができ上った。

想像力豊かな思春期前の子どもたちは、「見立て」が得意である。教わらなくても、日常の遊びのような感覚で簡単にできてしまう。大人も子どもを見習い、もっと柔軟に自由な発想をすれば、「一式飾り」の伝統を活性化できるのではないだろうか。